

# 埼玉県学力・学習状況調査に係る効果的な取組事例（中学校・英語）

春日部市立東中学校

## 1 本校の概要

### ○埼玉県学力・学習状況調査の結果

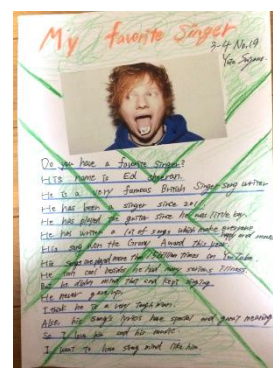
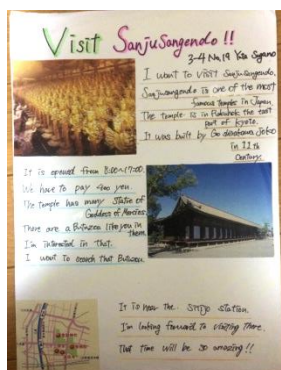
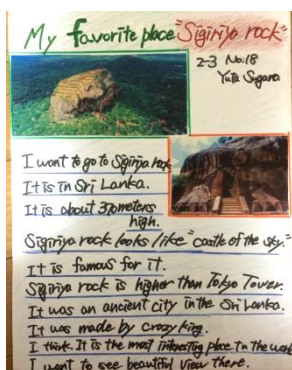
学年	伸びた層			本事例で取り上げた領域			左記以外に取り上げた主な取組
	上位層	中位層	下位層	聞くこと	読むこと	書くこと	
3			○			○	

※ 「伸びた層」は、一番伸びた層に『○』。各層において同じ伸びの場合は、複数の層に『○』。

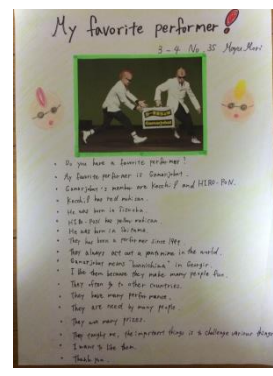
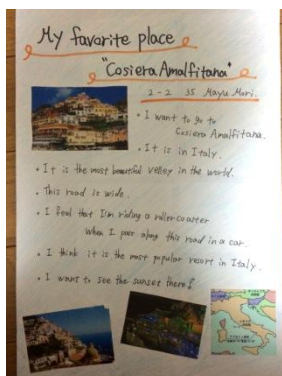
### ○伸びた結果の要因、背景

- ・ 単元ごとに、深化・補充の充実を図っている。その中でも、アウトプット活動に重点を置き、習った事項をすぐに使える環境づくり、英語で自由に表現したいという生徒の意欲に応える取組を行っている。以下は同じ生徒2名による事例である。（左から2年3学期「世界遺産を紹介しよう」、3年1学期「京都のレポートを書こう」、3年2学期「偉人を紹介しよう」）

【生徒A】



【生徒B】



両生徒ともに、英文に多少の間違いは含んでいるものの、英文量においては徐々に増加している。与えられたテーマについて、まとまりのある英文を書く力の伸びが見られる。その他多くの生徒においても同様である。英訳演習等の答えのある書く活動だけではなく、自分の考えたことや調べたことを書くという活動を充実させることで、表面的・機械的な表現ではない、伝えるための書く力が伸びると期待できる。

## 2 具体的な取組

### ○本校独自の取組

- ・ 「確かな学力」を身に付けさせるため、「言葉は使わなければ忘れてしまう」ということを念頭に置き指導している。具体的には、年間を通して各単元の後半に、便利表現集を活用して基礎的・基本的なことを繰り返し学習している。また、段階的な変化を織り交ぜながら、2年生、3年生へとステップアップさせ、継続的な指導を

行い、定着を図っている。

- ・インプット活動からアウトプット活動に至る過程の、活動段階の工夫に力を入れている。本文の穴あきプリントやインプット活動の応用など、生徒が自分で少し変えたり、考えたりする必要がある活動の充実を図っている。
- ・各学年、年間3度のスペリングコンテストを行っている。第1回から第3回にかけて徐々にテスト範囲を広げていき、同じ語彙を繰り返し指導している。
- ・間違えることを恐れて発言を躊躇しないよう、相手に伝えたいという気持ちや、伝えようとする態度を重視している。間違えながら覚えていくことが重要だと繰り返し伝えている。

### 3 成果と課題

○分析結果を踏まえた、これからの実践に向けての課題

書く力をさらに伸ばしていくために、語彙力に注目したい。自分が使える語彙が少なければ、書く力は大幅に制限され、タスクに対するストレスも大きくなってしまう。語彙を増やすための言語活動をより充実させていくだけでなく、単語のグルーピングや、推測方法など、ストラテジー指導にも力を入れていきたい。

生徒が英語で表現できる実践的な運用能力を養えるよう、引き続き言語の使用場面や言語の働きを一層広げた言語活動を実践していきたい。